

2019 年度

カリキュラム編成書

映像放送科

映像演出コース(2年生)

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

作成日： 2019 年4 月1日

作成者：八巻 吉市

学 科 名	映像放送科
コース名	映像演出コース
所属分野	クリエイティブ分野

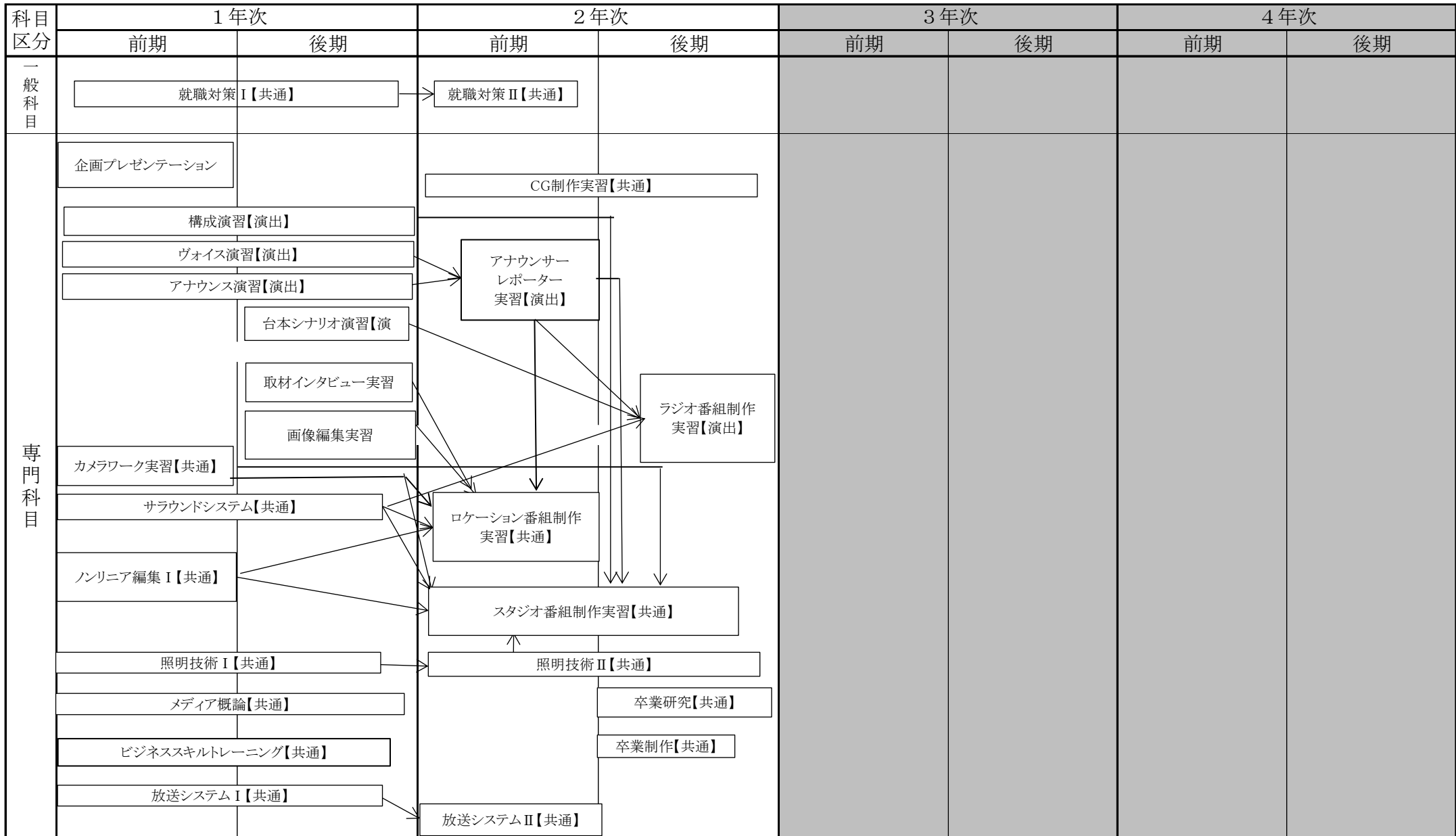
(各行は適宜増減のこと)

人材ニーズ	デジタル技術の進展により、映像コンテンツの流通の機会が拡大されておりますが、新たな映像市場分野を開拓していくためには、新たな技術の積極的な活用と人材育成が不可欠です。
	理想の人材として、ナレーションスキル、ディレクションスキル、テクニカルスキルを身に付けたマルチスタッフの人材育成が求められる。
育成人材像	番組の台本を構成する構成作家や制作現場の責任者であるディレクターなどメディア業界のブレーンを担うスタッフの育成と放送やイベントなどのメディアの”顔”として社会に”言葉”でその場の”空気(状況描写のできる)”を伝える現場が欲する”レポーターや”語れる”ナレーターなどディレクションスキルやテクニカルスキルを身に付けたマルチスタッフを育成する。
主な教育内容 と目標	■前期では、これまでの映像、音響、照明に関する教育を通して、イメージを具体化する技術的な基礎を学び制作に必要なテクニカルスキルを身に付ける。
	■中期では、制作演出に必要な専門知識として、演出論や構成台本演習などを学びディレクションスキルを身に付ける。同時にレポーターに必要なビジネス、語学、ヴォイストレーニング、取材インタビュー実習を通じて状況描写や”ことば”による表現を学ぶ。
	■後期では、スタジオ番組制作実習など映像放送コースとコラボレーションすることにより、制作、技術、出演者の関わりを学びチームワークの重要性和”場の空気”を伝える方法を習得する。
	※インターンシップを通じて現場感覚を養う。
目標資格	映像音響処理技術者(初級)：日本ポストプロダクション協会
目指す職種	ディレクター
	映像編集者
	レポーター
業界や外部 専門家との 連携体制	【現状】放送局(ケーブルテレビも含む)・宮城県映像製作社協会とのインターンシップ
	日本映画テレビ協会主催によるセミナー研修
	【今後】今後も継続的に実施する。
特長	業界との連携した人材教育
その他	特記事項なし

科目 関 連 図

学 科 名	映像放送科（映像演出コース）
-------	----------------

作成日：2019年4月1日



シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	就職対策Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動【エントリーシート作成・履歴書記入・作文・面接試験】を支援を目的とする。 【概要】 ・ エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習				
到 達 目 標	・ 志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 ・ 作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 ・ 入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るよう行動できる。 ・ 面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	エントリーシート、履歴書記入演習			
	10	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習			
	10	作文、論文演習			
	10	個別面談			
計	38				
使 用 教 材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)				
履 修 上 の 意 注	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	・一般常識実力試験 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・演習レポート 【一般常識実力試験80%・課題小テスト10%・平常点10%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	放送システムⅡ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして放送技術全般の教育を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】 ・デジタル時代の放送技術の学習を通して、デジタル伝送、符号化技術、変調方式を学ぶ。 【概要】 ・FPU伝送、通信衛星(CS)伝送、光ファイバーネットワークを用いた伝送、公衆回線の放送利用、様々な映像伝送設備(緊急報道用機材)について学ぶ。 ・デジタル放送システム、デジタル放送方式、データ放送の概要、ネット配信、ワンセグの概要について学ぶ。				
到 達 目 標	・中継 システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)を結びつけて説明ができる。 ・地上デジタル放送とBSデジタル放送の違いを説明できる。 ・高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)をそれぞれ説明できる。 ・伝送路の違いによる変調方式について、説明できる。 ・デジタル伝送方式の種類を説明できる ・データ放送サービスと仕組みを説明できる。 ・ネット配信とワンセグについて、説明できる。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	放送システムⅠ、通信工学の知識があれば望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	ニュース番組、スポーツ中継、報道中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)			
	2	地上デジタル放送とBSデジタル放送の違い			
	14	高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送			
	14	伝送路の違いによる変調方式			
	2	データ放送サービスと仕組み			
計	2	ネット配信とワンセグ			
	38				
使 用 教 材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版)				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題評価10%・授業態度10%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	照明技術Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	原 田 建	実 務 経 験	照明技術会社、番組制作会社に勤務し、テレビ照明、イベント・舞台照明に従事、その実務を生かしてテレビ照明技術の実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】 対談番組や歌番組、ニュース番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得する。 【概要】 ・人物照明とディスプレイ照明 ・番組形態による照明 ・番組演出と照明 ・撮影取材の照明				
到 達 目 標	・人物の基本照明を理解し、点光源と面光源の違いなどを学ぶ。また、物撮り照明の陰影の違いと光物のライティングを修得する。 ・対談番組、ニュース番組、歌番組など番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティングなど、制作実習を通じて修得する。 ・番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティングを取得する。また、暖色系や寒色系など、映像描写を考えた色フィルターの使い方などを修得する。 ・ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明を修得する。 以上の4点が具体的にできる。または、具体的に説明できる。				
目 標 資 格	公益社団法人日本照明家協会 照明技術者2級				
前 提 知 識	1年次に基本的知識を理解していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング			
	19	番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティング			
	19	番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティング			
	19	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明			
計	76				
使 用 教 材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)				
履 修 上 の 意 注	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題レポート20%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	ロケーション番組制作実習			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / (実習) / 演習
コマ数 / 週	4	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かしてロケ番組制作の実践的な教育を行う。		
目的 / 概要	【目的】ロケーション番組制作実習を通して下記の項目を学修する。 ・番組形態による制作の考え方、台本構成、文章表現、演出を考えたカメラワーク、音声処理、インタビュー手法、ノンリニア編集を学ぶ。また、制作過程の中から制作スタッフとしての役割と、関わりについて実習体験を通して学修する。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 【概要】 ・ロケーション番組形態による制作の考え方と基本姿勢・演出によるカメラワーク・台本構成と 文章表現・インタビューとレポート・ノンリニア編集と完パケ・ナレ録り、など制作スタッフとして関わり、番組を完成する。				
到達目標	ロケーション番組制作実習を通して、番組形態による制作の考え方、台本構成、文章表現、演出を考えたカメラワーク、音声処理、インタビュー手法、ノンリニア編集を理解し、具体的にロケーション番組が制作できる。 【映像演出コース】 【ロケーション番組を演出、台本構成、ナレーションができる】 【演出の立場で技術スタッフと関わりを持ち、それぞれのポジションを理解し、具体的な番組制作ができる】 【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】 【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】				
目標資格	特になし				
前提知識	1年次の履修内容が理解できていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	ロケーション番組形態による制作の考え方と基本姿勢を理解する			
	8	演出によるカメラワーク・台本構成と文章表現を理解する。			
計	8	ロケーション番組制作の音声のシステム、手法を理解する。			
	8	ノンリニア編集(システム、取り込みから完成まで)を理解するb。			
	44	課題番組制作(企画構成・取材・撮影・編集・完パケ)			
	76				
使用教材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式				
履 修 上 の 意 注	意欲を持って真面目に、そして、積極的に活動すること				
成績評価の方法	・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・課題レポート ・課題評価 【定期考査60%・課題レポート10%・実習評価10%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	スタジオ番組制作実習(企業連携科目)			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	6	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	千葉 義則	実 務 経 験	地元放送局でテレビ制作部門に勤務し、スタジオ番組、中継番組、CMなどを制作、その実務を生かしスタジオ番組制作の実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】実践的かつ専門的な能力を育成するために、企業連携により、現場講師によるトーク番組、ミュージック番組、ニュース番組などのスタジオ制作実習を通して、番組形態による制作の考え方や基本姿勢と台本構成や文章表現、演出方法を学び、制作過程の中から制作スタッフとしての役割と仕事について実習体験を通して学修する。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 【概要】 番組形態による制作の考え方と基本姿勢・演出による画面サイズとカメラワーク・番組形態による 台本構成と文章表現・番組・CM・PV(プロモーションビデオ)制作の実際 ・制作スタッフの役割と仕事 ・補講				
到 達 目 標	・番組によってテーマ、コンセプト、視聴対象、表現方法などが異なることを学び、それに合わせた制作の考え方や基本姿勢を修得する。 ・ドラマやスポーツ番組など内容や演出により変化する画面サイズとカメラワークを制作実習を通じて修得する。 ・番組形態により変化する台本構成と文章表現を実習を通じて、言葉と映像を通して具体化する。 ・番組・CM・PV(プロモーションビデオ)制作を通してメディアの異なる表現や「もの創り」について学ぶ。 ・制作実習を通じて、スタッフの役割と仕事を学び、技術と演出の両面のレベルアップを図る。スタジオ番組制作実習を通して、番組形態による制作の考え方、台本構成、文章表現、演出を考えたカメラワーク、音声処理、照明演出を理解し、具体的にスタジオ番組が制作できる。 【映像演出コース】 【スタジオ番組を演出、台本構成、ナレーション、進行(MC)ができる】 【制作スタッフとして、技術スタッフとして、関わりを持ち、それぞれのポジションを理解し、具体的な番組制作ができる】 【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】 【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次の履修内容が理解できていること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	番組形態による制作の考え方と基本姿勢を理解する			
	2	演出による画面サイズとカメラワークを理解する			
	8	番組形態による台本構成と文章表現を知る			
	96	番組・CM・PV(プロモーションビデオ)制作の実際【課題制作】			
	2	制作スタッフの役割と仕事を知る			
	3	補講			
計	114				
使 用 教 材	担当者作成プリント				
履 修 上 の 意 注	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・課題評価 【定期考査80%・課題評価20%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	CG制作実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	橋本 貢	実 務 経 験	映像制作・イラスト制作・商品カタログ制作など様々な業種でCG制作に従事。学生個人の特性に合わせ、実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	3DCGの基礎を修得しリアルタイム映像用素材を作成できるようになる。				
到 達 目 標	・3DCGアプリケーションを用いて簡単なCGモデルが制作できるようになる。 ・自作した画像をCGモデルに適用し、テクスチャマッピングが行なえるようになる。 ・立体ロゴや質感を作成し、簡単なアニメーションが制作できるようになる。 ・3DCGアプリケーションで書き出されるデータ形式を理解し、映像素材として利用できるようになる。				
目 標 資 格					
前 提 知 識	一年次に学習した科目の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		前期			
	4	・3DCGとは？3dsmaxの機能、操作についての基礎とプリミティブを使用したモデリング			
	8	・ポリゴンモデリングの基礎(ヒトデ、イルカの作成)			
	8	・モデリング応用とテクスチャマッピングの作成(動物のモデリング)			
	8	・UVマッピングを利用したモデリング(缶のラベル、顔のモデリング)			
	8	・簡単な人型の作成			
	2	・制作指導、補助			
		後期			
	8	・立体ロゴの作成、質感設定、簡単なキーフレームアニメーション(カメラ、ロゴ)			
	4	・アニメーションのレンダリング(プレミア、アフターエフェクトへのファイル受け渡し)			
	4	・アニメーション表現(ボールのバウンド)			
	8	・ボーンとは？円柱をつかったリギング(簡単なキャラクター制作)			
14	・学習内容の総括(8秒のアニメーション制作)				
計	76				
使 用 教 材	教員が配布する資料、データ				
履 修 上 の 意 注	・3DCG制作実習は提出した作品データで評価します。未提出は評価しませんので注意してください。				
成 績 評 価 の 方 法	課題提出80% 平常点20%				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名		映像演出コース			
科 目 名		ラジオ番組制作実習		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	57	単 位 数	3
担 当 教 員	松浦 貴広	実 務 経 験	フリーのナレーターとして、テレビニュース、ラジオのパーソナリティー、CM、VPなどに従事。その経験を生かし、ラジオ番組制作の実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	【目的】ラジオ番組制作実習を通して、演出スタッフ、進行(アナウンサー・レポーター)スタッフ、技術スタッフのそれぞれの役割と関係を学び、プロレベルまでスキルアップを図る。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 【概要】 ①ラジオ番組の企画 ②商品たるべきラジオのエンターテインメント性 ③“音楽”と密接な関係であるラジオ:ディスクジョッキーとは？ ④タイムキープ ⑤表現力の習得 ⑥災害時におけるラジオの役割				
到達目標	①ラジオ番組の企画:趣旨根幹の徹底と、番組の商品価値を高めるための企画構成ができる。 ②商品たるべきラジオのエンターテインメント性:情報単体のメディアではないラジオでのエンターテイメントを説明できる。 ③“音楽”と密接な関係であるラジオ:ディスクジョッキーとは？ 音楽の力、魅力を最大限引き出すことができる。 ④タイムキープ:喋り手、ディレクター、ミキサー、ラジオ制作に関わる人それぞれの立場でタイムキープが出来る。 ⑤表現力の習得: 声だけで伝えなくてはならないラジオにおいて、表現力の習得は欠かせないスキルである。それぞれの個性を活かした表現ができる。 【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】 【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】 ⑥地域に密着した災害時の情報、その速報性、情報精査とコンプライアンス、災害に遭われた人に寄り添う				
目標資格	特になし				
前提知識	1年次履修内容が理解できている。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	57	【ラジオ番組制作実習】番組制作を通じて下記項目を理解する。 ①ラジオ番組の企画 ②商品たるべきラジオのエンターテインメント性 ③“音楽”と密接な関係であるラジオ:ディスクジョッキーとは？ ④タイムキープ ⑤表現力の習得 ⑥災害時におけるラジオの役割			
	計 57				
使用教材	・配布プリント				
履 修 上 の 意 注	・実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成績評価の方法	・定期考査 ・レポート等提出物 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題評価20%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名		映像演出コース			
科 目 名		アナウンサーレポーター実習		科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義/②実習/演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	佐藤 知子	実 務 経 験	放送局のアナウンサーとして勤務後、独立。アナウンサー、レポーターとしての経験を生かし、取材能力、原稿作成、インタビューなど、実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	【目的】 アナウンスやレポートを行うために必要な取材能力、原稿作成、インタビューなど、ディレクションセンスを身につけた、アナウンサー、レポーターを目指し、実践的なスキルを修得します。 【概要】 ・共通語と方言 ・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント) ・語集の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ				
到達目標	・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント) ・語彙の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ・インタビュー 上記項目を理解し、課題実習を通して、演出に合わせたレポート及びアナウンスができること。				
目標資格	話しことば検定				
前提知識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	共通語と方言 ・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント)			
	3	語彙の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ・インタビュー			
	13	課題実習			
計	19				
使用教材	・話しことば検定テキスト ・配布プリント				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートと筆記用具を用意すること。 ・制作に必要なものを準備する。 ・実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成績評価の方法	・定期考査 ・レポート等提出物 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題評価20%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	アナウンサーレポーター実習			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義／①実習／演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	松浦 貴広	実 務 経 験	フリーのナレーターとして、テレビニュース、ラジオのパーソナリティ、CM,VPなどに従事。その経験を生かし、取材能力、原稿作成、インタビューなど、実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】 アナウンスやレポートを行うために必要な取材能力、原稿作成、インタビューなど、ディレクションセンスを身につけた、アナウンサー、レポーターを目指し、実践的なスキルを修得します。 【概要】 ・共通語と方言 ・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント) ・語集の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ				
到 達 目 標	・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント) ・語彙の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ・インタビュー 上記項目を理解し、課題実習を通して、演出に合わせたレポート及びアナウンスができること。				
目 標 資 格	話しことば検定				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6	共通語と方言 ・話のまとめ方と聞き方 ・敬語の使い方 ・音声表現(発声・発音・アクセント)			
	6	語彙の選択と表現 ・慣用句、ことわざ、四字熟語 ・プレゼンテーション ・スピーチ・インタビュー			
	26	課題実習			
計	38				
使 用 教 材	・話しことば検定テキスト ・配布プリント				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートと筆記用具を用意すること。 ・制作に必要なものを準備する。 ・実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 方 法	・定期考査 ・レポート等提出物 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題評価20%】				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名	映像演出コース				
科 目 名	卒業研究			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / (演習)
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして研究テーマ全般の教育を行う。		
目的 / 概要	【目的】 ・授業で学習した演出に関係する内容を自ら深く掘り下げ、情報収集、研究する。また、映像演出に関する研究テーマを決めて、自学することを学修する。 ・研究結果を発表し、プレゼンテーションスキルを身につける。 【概要】 研究テーマを決めて、調査研究を行い、それをレポートのまとめ、その結果を研究発表する。また、グループ活動を通して、個々の知識のレベルアップを図る。				
到達目標	・研究テーマについて、収集した情報を整理できる。 ・研究テーマについて、考察ができ、レポートにまとめることができる。 ・研究内容をプレゼンテーションができる。				
目標資格	特になし				
前提知識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	レポート・論文作成法			
	20	研究テーマ決め、情報収集、研究			
	8	プレゼンテーション			
計	38				
使 用 教 材	思考を鍛えるレポート・論文作成法(慶応義塾大学出版局) 配布プリント				
履 修 上 の 意 注	・iPatと筆記用具を用意すること。 ・提出用レポート用紙を準備する。 ・研究は、積極的に取り組むこと、また、疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、すみやかに解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・プレゼンテーション内容を評価する。 ・レポート等提出物 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019 年 4 月 1 日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名		映像演出コース			
科 目 名		卒業制作		科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / (実習) / 演習
コ マ 数 / 週	6	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして映像コンテンツ制作の実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】2年間集大成として、それぞれ学んだ知識、技術を活かし「もの創り」を映像表現する。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 ・音響制作科との合同実習を通して、制作技術スタッフ、音響スタッフ、舞台演出スタッフと連携を図り、それぞれの立場を理解し、スムーズな制作進行とクオリティーの高い、作品制作を目指す。 【概要】 ・作品制作(グループ制作) ・音響制作科が企画構成したステージイベント作品を公開収録をする。				
到 達 目 標	【テレビ番組やラジオ番組を演出、台本構成、ナレーション、アナウンスができる】 【演出の立場で技術スタッフと関わりを持ち、それぞれのポジションを理解し、具体的な番組制作をスムーズに進行できる】 【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】 【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	2年間学んだ専門知識を理解できている				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	114	作品制作(映像・音声)・音響制作科が企画構成したステージイベント作品を公開収録			
	計 114				
使 用 教 材	作品制作用資料及び教材				
履 修 上 の 意 注	”もの創り”に【前向きに取り組む】、【丁寧な表現】に心がけること。 制作姿勢、内容に【こだわり】を持つこと。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査 ・完成作品 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【取り組み姿勢80%・作品評価10%・定期考査10%】				